佐賀大学　芸術地域デザイン学部　学生活動誌　メモア

# Mémoire

特集

2021th GECHIDE PROJECTS

Take Free

私たちは、この場所で、胸を躍らせる。

# はじめに

「佐賀大学の芸術地域デザイン学部ってどんな学部なの？」そう聞かれるたびに「いろいろありすぎて分からない」と答えていた。

ひと学年約 120 名という比較的小さな学部でありながら、専攻分野の幅が広く、他の同級生が今どんな活動をしているのかよくつかめないままだった。

まずは私たち自身が同じ学部のことを知るために。そして学部外の方にも、この個性豊かな学生たちの存在が伝わるように。この冊子は、芸術地域デザイン学部の学生である私たちが、自ら企画や取材、編集を行った。

タイトルの「メモア」は、「記憶」を意味するフランス語。単なるプロジェクトや展覧会の情報をまとめたものではなく、その時にしか得られない学生たちの記憶にフォーカスしたいという思いを込めた。

メモア編集部

# CONNTENTS


## 特集　2021th GECHIDE PROJECTS

5-6　青に彩

7-8　型打展

## 特集　GECHIDE STUDENTS

11-12　渡辺かれん

13-14　豊坂かなる

## 特集　GECHIDE LABORATORY

15-16　美術史ゼミ

# 2021th
# GECHIDE PROJECTS

芸術地域デザイン学部、通称「げちで」。

絵画や染色、木工など芸術分野を学べる芸術表現コースと
アートやデザインを通して地域課題に目を向ける地域デザインコースの２つのコースに分かれているこの学部。
学生たちは、制作・研究活動を行いながら毎年様々な分野の展覧会やイベント活動を行っている。

今回は、前年に引き続き
編集部が選んだプロジェクトの代表者に取材した「2021th GECHIDE PROJECTS」のほか
個人の制作活動に注目した「STUDENTS」編
専攻室の活動を取り上げる「LABORATORY」編を追加。
より多方面から「げちで」を見つめてみた。

# 2021th GECHIDE CALENDAR

2021年度に佐賀大学芸術地域デザイン学部の学生が関わった
展示会やイベント、プロジェクトを見開き１ページにまとめた。


**04**

・ひととせ
・無価値の価値
Null World

・mi
・めぐむ展

**05**

**06**

・CLC reboot!
・デジタル表現技術者養成
プログラム終了作品選抜展

・漆の家作品展
・P展
・Ichi~つながるマルシェ~

**07**

**08**

・共通基礎成果発表展
・182.5
・自分では手を触れずに
作品を作る
・ヘアエステ Polaris× 佐大生
コラボデザイン募集

・HAHA
・break!
・青に彩

**09**

そこには専門、分野はさまざまに、学生それぞれが
得意とする形での「表現の場」が存在する。

## 10

- TSUDOIBA 隠れんぼ
- 型打展
- 風花マルクト出店
- 思考のリレー
- 鹿島市肥前浜宿
  建物活用コンペ
- 階段一感覚
- 選挙プロモーション動画撮影

## 11

- 鳥栖未来計画成果展
- TSUDOIBA 鬼ごっこ
- 学生展の系譜
- FOCUS
  -私たちが見た長崎街道-

## 12

- minimi 展
- 武雄かくれ伝説
- うるし展
- TSUDOIBA テーブルゲーム
- 突っぱね、ひょう、ままに

## 01
2022

- TSUDOIBA ドッヂビー
- ゲリラ美少女展
- クリエイティブ表現プログラム
  修了作品選抜展

## 02

- Air Chari 制作
- 紡展
- 卒業・修了制作展
  本庄キャンパス
- オーバードーズ -Over Dose-
- 卒業・修了制作展
  有田キャンパス

## 03

- 「かちがらす」
  学生広報取材
- 青に彩

長期間のイベントやプロジェクトは開始月を記載しております。

# 青に彩

## どのような作品が売れるのか実験してみたかった

まだ暑さが残る９月。
「1 年生が販売型のグループ展を開催する」という情報を耳にした。
まだ入学して半年だというのに仲間を集めて動き出している後輩たちの姿に心打たれた。

**PROFILE**

園田一馬
*Kazuma Sonoda*

出身　佐賀県
長所　思いついたらすぐに行動すること
短所　計画の実行途中で他のことをやりたくなってしまうところ

目標　アトリエ、ギャラリーを作ること。制作場所が足りない人に制作の場、作品発表をしたい方に発表の場を提供したい。制作者のモチベーション維持につなげたい。

学部を一言で
コインランドリー。みんな同じ環境の中で回っているけれども、どれも綺麗なものが出てくるので。

展覧会名「青に彩」の由来は？

グループのみんなで話し合い、決定した名前です。グループメンバーが一年生である今の環境と青二才の文字があっているということで青二才を採用し、グループのメンバーは様々な作家が集まりそれぞれ個性を持っており同じものではない、それは彩りのあるグループであるという意味も込めて才の部分を彩の文字に置き換えて『青に彩』という名前が生まれました。

展覧会開催きっかけは？

作家に表現の場を提供する、キュレーションというものに興味がありました。初めは二、三人といった小規模なマーケットのようなものを開催して作品販売の実験しようと思い、Twitterを通じて参加者を募集していました。しかし、予想よりも人数が集まったことにより展覧会という形に至りました。

**展示会情報**　～青に彩～

期間　2021年9月19日～26日
場所　喫茶ヤク
出展者所属　芸術地域デザイン学部表現コース５名
　　地域デザインコース１名
来場者数　約150人

出展する作品にはテーマを設けていたんですか？

作家自身の表現をやってほしくて、テーマを絞りたくはなかったため、メンバー一人一人の自由を尊重して制作してもらいました。

展覧会を通して成長したと感じたことは何ですか？

どのような作品が売れるのか実験してみたいという思いがあったため、展覧会を通じてどんな作品が大衆にニーズがあるのかを知ることができました。

また、実際に展覧会の運営立場になると大変な部分が多かったですが、広報をどのような形で行えばいいのか等、行動してみることで思いがけない面でも学びがありました。

開催までの経緯を教えてください。

一から展覧会を作るということで展示の仕方、多くの人に見せるにはどういった広報をする事ができるのかなどの運営の部分が大変でした。

また、展覧会を主催する人間として、作家の自由な表現と全体のカラーが見えづらいという問題との間で板挟みになることもしばしばありました。他メンバー作品制作に関しては各自で進めてもらっていましたが、締め切りを２日前にしてしまって。青に彩開催当日になって初めて現地に作品を持って行って、悩みながら展示のやり方を決めていました。

# 型打展

## 反転した時に面白いのは
## どのようなデザインなのか

**PROFILE**

古橋綾香
*Ayaka Furuhashi*

出身　京都府
長所　決めたことは最後までやり遂げる
短所　マイペースなところ

目標　もっと今の有田焼の陶芸家さんたちの活動を日本全国、世界に伝えることに貢献できるようなものづくりをする。

学部を一言で
なんでもできること。
同じ学部でも様々な専攻があって、他の専攻の方と授業で交流があった際に、こんなにも違うことをしている人がいるんだと感じたため。

展覧会を通して成長されたことはありますか？

型打展は「ろくろ形成Ⅲ」という授業（「ろくろ形成Ⅰ・Ⅱ」を取っていた者が履修できる応用編の科目）の成果展です。成長したかといわれるとあまり実感がなく思いつきませんが、言うなればろくろの扱いは上手になりました。

「ろくろ形成Ⅲ」では何を制作しましたか？

「型打ち」という技法を新しく授業で習いながら器を制作しました。しかし、型打ちだけの技法で作るというわけではなく、「ろくろ形成Ⅰ・Ⅱ」でならった基本の作り、さらにこれまでよりも高いデザイン性も必要になってきていました。

**展示会情報**　～型打展～

期間　2021年10月12日から27日（平日のみ）
場所　有田キャンパスエントランスギャラリー
出展者所属　有田セラミック専攻

どのようなデザインの作品ですか？

「型打ち」は、粘土上でハンコのように模様を作ることができます。ハンコはデザインが反転するため、反転したときに面白いのはどのようなデザインなのかずっと考えていました。私の場合イチゴの反転した感じがおもしろいと思いイチゴをデザインしました。

他の方の作品で面白いと感じたものはありましたか？

アジサイの作品が面白かったです。普通ろくろを用いた作品は丸いお皿しかできないのですが、型打ちを用いることで角を付けたお皿を作ることができるんです。そのアジサイの作品はとがった部分をしっかりと形作って制作されてて、特に印象に残っています。

デザインと技術、どちらが得意ですか？

デザインは結構苦手ですね。私はずっと手を動かしていたいので技術面のほうが得意ではあります。動かしながらも結構焼くときに粘土生地が縮んでしまうので計算しながら制作を行っています。

作品を作る際は自分で使うことを想定するのですか？

やはり自分が一番持ちやすい形というのはしっかり研究するようにしています。独創的な形というよりも、誰でも普段使いできるような形をデザインするようにしています。

# 渡邊かれん

## ハンドメイドショップ「Milly」を立ち上げ、ネット販売などで活動中

**PROFILE**

渡邊かれん
*Karen Watanabe*

出身　茨城県
長所　なんでも楽しめるところ。みんなが嫌がることも好きになれる
短所　確認しすぎること。たまに時間をかけすぎてしまう

目標
自分の好きなものを作り、もっとマルシェなどに参加して共有していくこと。

学部を一言で
気づいたらやっている。
周りの人が知らないうちに制作している人がいて、焦る時があるから。

Milly を始めたきっかけは？

家でやる事がなく、何かやりたいと思った時にレジンがちょうど出始めていたので試しにはじめてみたのがきっかけです。作品を売ると言う面では陶器のアクセサリー販売を高校でした経験がはじまりです。あとネット販売で手軽に始められたのもきっかけですね。

作品を作るにあたって大切にされていることは？

自分がいいと思わないものは他の人もいいとは思わないので、必ず一回自分で使ってみて周りの人からの反応を見たりしています。まずは自分の好きなものを作れるようにするという段階です。

好きなものは例えばどんなものですか？

くすんだ色、淡い色が結構好きです。必ず万人受けするものを作るのは難しいので、自分が好きなもので自信を持って作るように意識しています。

商品で気を付けていることは？

一番気にしているのは安全性です。私の作品はワイヤーを使うものが多いので切れ端などの危ない部分が絶対にないように、何度もさわってチェックしています。お客さんに商品を届けるのがネット販売になるので絶対に壊れないように１個１個耐久性、見た目の綺麗さを大切にして梱包しています。

制作方法は？

まず iPad では流行っているお洋服などの色味に合うものを考えながら、図案を起こしています。図案ができたら簡易的にワイヤーとレジンでパーツを作ってどう組み合わせたら可愛くなるかと模索して作っていっています。

作品はどのようなものをモチーフにされていますか？

私は基本的にはお花がモチーフなのですが、最近は空といった自分が綺麗だと感じた自然をモチーフにしています。

制作頻度はどのくらいですか？

まとめて制作しています。アイデア出しなどは電車やバスに乗っている間に行っていて、空いている時間を見つけたら丸一日かけて作り置きしています。

作家活動を通して思い出に残っていることはありますか？

アクセサリー販売をして間もない、リピーターの方があまりいらっしゃらない頃、私の Instagram のメッセージに一度プレゼント用で購入してくださった方から『プレゼントで友達に買って渡したら、すごい喜んでくれてお気に入りでいつも使ってくれているからぜひまた購入したくて買いました。』とメッセージが届いた時はとても嬉しくて思い出に残っています。やっぱり作品の感想を聞くと制作のモチベーションにもなりますね。

アクセサリー作り以外で興味のあることはありますか？

最近はハンドメイド面では服飾に興味を持っていて、中でもスカート、ワンピースを作ろうと思っています。はじめは無地の服に刺繍をすることから始めていこうとしています。

# 豊坂かなる

## 大学で西洋画を学びながら
## 個人としても精力的に活動中

**PROFILE**

豊坂かなる
*Kanaru Toyosaka*

出身　長崎県
長所　いつも笑顔でいること
短所　幼い。けれど末っ子気質で目上の人に接しやすい

目標　大学のうちに自分の表現を見つけたい。

学部を一言で
目立った者勝ち。
他の学部に比べ、変わったことをした人の方が評価されるイメージがあるため。

西洋画を大学でしようとしたきっかけは？

高校の美術部で西洋画をやっていて、大学に入っても続けていきたいと思い西洋画を学んでいます。

制作を通してこだわりなどは？

色使い。カラフルな感じが好きなので色が濁ったりしないように、それぞれの色同士が画面の邪魔をしないように気をつけています。また、高校の頃から点描のように丸をひたすら描いて積み重ねていく方法で絵を描くことが多いです。近くで見た時と遠くで見た時の印象が違って見えて面白いです。丸に愛着が湧いてしまって続けているところもあります。

制作で成長した場面はありますか？

制作で成長したという実感はあまりない気がします。まだまだ経験が足りない部分もあるので……

作品を描くとき何をモチーフにすることが多いですか？

モザイクアートのような色面が敷き詰められた色が鮮やかなものや丸いものが好きです。最近で言うと序展に出した『Melt』と言う作品は、モチーフが松の木とアイスクリームで、特に松の木の幹の部分は色面がつめられた形をしていて自分の好きなモチーフが現れていると思います。

絵を描くとき、対象物のどこを特に見て制作をしていますか？

自分が好きだと思ったものを抽出して全体に広げて描いています。

挑戦されていることは？

大学在学中に自分の表現を見つけるという目標があるので、今はさまざまな描き方に挑戦しています。最近は西洋画の授業で自由に制作する事がメインになっています。自由ということもあり、他の人の作品を見ていると自分とはまた違った表現が見られてとても勉強になります。

大学に入って成長したことは？

以前と比べて人と話すことに慣れたと思います。高校までは人と話すことに苦手意識があったのですが、今は気軽に人と接する事ができていますね。色んな人と会って話すことでモチベーションに繋がっていると感じます。

いつもどこで制作する事が多いですか？

最近は西洋画室で描きたい気持ちがあるので西洋画室で描く事が多いです。家でも少しずつ絵を描いています。

作品一つ作るのにどのくらいの期間をかけられますか？

F50のサイズは3ヶ月、F0のサイズは描き方にもよりますが、5〜10時間ほどで完成させる事が多いです。それも一気に6時間。集中して制作しています。

制作を進める上でモチベーションとなるのはどんなものですか？

作品を人に見てもらう事が嬉しいです。展覧会などで感想をいただくことがモチベーションにつながっています。

大学を卒業された後は？

芸術活動は一旦辞める予定にしています。今はアパレルに興味があってその道に進みたいと考えています。一方で、お洋服でも自己表現は可能なので、表現すると言うことはやめずに続けていきたいと思います。

# 美術史ゼミ

## PROFILE

### 高森なぎさ
*Nagisa Takamori*

大学で成長したことは？

自分でやろうと思ってことはできるということに気が付きました。

高校までは実家暮らしで田舎だったこともあり、１人でできることが極端に少なかったのですが、大学生になってからSNSも始め、さまざまなカルチャーショックを受けました。芸術地域デザイン学部の友達が活動的で自分も刺激を受け、今までよりも視野が格段に広がったなと感じました。

## 最後は吉住先生の声かけにホッとします

出身　佐賀県伊万里市
長所　怖いもの知らず。チャレンジ精神が旺盛
短所　１つのことが長続きしない。あまりコツコツタイプではない
就職先　自動車整備士

目標
１：自動車整備士を引っ張っていく存在になること
２：少林寺拳法では佐賀や九州を盛り上げること
３：先生と学生を繋ぐボランティアをやること

学部を一言で
入って大正解学部！
何をやっても先生達は褒めてくださる。本当になんでもできる学部だと思う。

美術史ゼミ
担当：吉住磨子先生

ゼミの特徴は？

吉住ゼミは美術史など歴史を研究するゼミ。教授である吉住先生はキリスト教系の図像学の先生です。私自身は元々中東アジア系の研究をしたかったのですが、今は日本史系の研究をしています。4年次の活動頻度は月に1回。各自で研究をし、研究が滞ったときに先生に相談するという形で進めており、月に1回発表会をして卒業論文の進捗報告をしています。

研究はゼミに入ってから最後までひとつのことを研究するんですか？

3年生の終わり頃から4年生の始めごろにかけてざっくりとテーマ決めを行います。調べていく中でわかってきたことをもとにテーマの範囲や難易度を見極めながら、当初のテーマをもとに細かなところを更新していきます。

どうやって研究を進めていくのですか？

研究対象によりますが、私は嬉野の神社にある像を調べているため。現地へ赴きフィールドワークを行います。海外の事例や故人を研究対象とする場合は歴史資料等を用いて調べます。

調査する中で1番大事にしていること、こだわりはありますか？

文献を見ていく上で絶対にこれだという文献は無いことがほとんど。それでも資料を取り寄せて目次を読み、無かったらまた別のものを取り寄せて調べる、ということの繰り返しです。1つのことに丁寧に時間をかけて調査をするため、数日かかることもあります。

研究するモチベーションは？

吉住先生の声かけがとても上手なことです。たくさんの指摘をされるのですが、必ず最後にはこの研究は絶対に面白いものになるから期待していますという言葉をかけてくださいます。中にはこの言葉がプレッシャーになる人もいるかもしれないですが、私はほっとします。吉住先生は絶対に生徒を誰一人見放さないという安心感があります。

たくさん文献に当たっても何も成果が得られないこともあるし、全然研究成果を書くことができない時もありますが、吉住先生から耳にタコができるくらい「そんな日もあるさ」と励ましの言葉をいただけるので、本当に心強いです。

# 編集部
# メンバー紹介

①コース
②出身
③長所
④短所
⑤趣味
⑥直近の目標
⑦学部を一言で
⑧制作の感想

編集長

## 村上　茜

Akane Murakami

①地域デザイン (2022 年 3 月卒業 )
②長崎県
③聞き上手
④声が通らない
⑤被写体
⑥より聞き上手になること
⑦自分次第
⑧メモアを通して後輩と交流できることがとても楽しいです。

副編集長 / 取材

## 安川　理澄

Rizumi Yasukawa

①地域デザイン
②福岡県
③好きなことが多い
④飽き性
⑤色々な場所へ出かけること
⑥得意なことを増やす
⑦個性が素敵
⑧楽しいお話をたくさん聞いて、頑張ろうと前向きになれました。

企画 / 編集

## 轟木　祐衣

Yui Todoroki

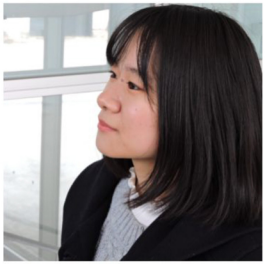
①地域デザイン
②佐賀県
③器用なところ
④ネガティブ
⑤アニメを観る
⑥健康的な生活を送ること
⑦自由な場
⑧まだまだ面白いことをしている人がいると思うと、これからも楽しみです。

取材

## 青木　美玖

Miku Aoki

①芸術表現
②福岡県
③すぐに行動する
④マイペース
⑤作ること
⑥もう少し考えてから行動する
⑦優しい世界
⑧取材をしていく中でたくさんの学びがありました。



取材

## 青木　結依加

Yuika Aoki

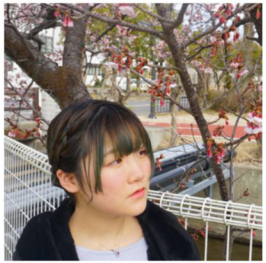
①地域デザイン
②福岡県
③フランクさ
④計画性のなさ
⑤美味しいご飯探し
⑥行動に移すこと
⑦温故知新
⑧知らなかったことに目を向けるきっかけになりました。

カメラマン

## 木原　有花里

Yukari Kihara

①芸術表現
②兵庫県
③チャレンジ精神がある
④飽きっぽい
⑤野球観戦
⑥どんなことにも前向きに取り組む
⑦一つの街
⑧カメラマンとしての初仕事楽しかったです！



カメラマン

## 伊藤　亜優

Ayu Ito

①芸術表現
②熊本県
③チャレンジ精神
④虚無になる
⑤好奇心
⑥計画的に丁寧に死にもの狂いで
⑦多文化社会
⑧色んな志を持った人達を撮影することが出来てとても幸せでした。

デザイン

## 小野　瑞佳

mizuka Ono

①芸術表現
②福岡県
③楽天家
④おおざっぱ
⑤ねこ
⑥自分自身をもっと知ること
⑦知る場所
⑧この場所で、色々な人が色々な想いで歩んでいることを知りました。

# 遊ぶように企画する。みんなの交流の場　TSUDOIBA

TSUDOIBA

私たちは、「大学生の交流の場をつくる」をモットーに活動するコミュニティーです。
私たち TSUDOIBA は、月に 1 回イベントを開催する「月 1 企画」と、長期スパンで動く「大型企画」を開催しています。
月 1 企画では、かくれんぼやドッチビーなどのスポーツ系や、ボードゲーム、ゴミ拾いなどさまざまな分野のイベントをしています。

大型企画では、朝活などをしています。
今の運営メンバーは、芸術地域デザイン学部、経済学部、農学部の 1、2 年生　計 14 名で活動しています。
普段からわくわくするような企画を作って遊んでいます！
私たちと一緒に面白い企画をつくりませんか？

12 月開催
ボードゲーム

1 月開催
ドッヂビー

2 月開催
ゴミ拾い

4 月開催
脱出ゲーム

定例会

4 月開催
遠足

私たちのこと、もっと、届けたいから。

# Mémoire Web 版、はじまります。

Mémoire × EDITORS SAGA

佐賀を編集するウェブマガジン

2021 年 6 月、第一号目となる学生活動誌「メモア」を発行。
友人や後輩、受験生などたくさんの方に読んでいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

2022 年、更に多くの人に佐賀大学芸術地域デザイン学部のことを伝えたい。
その願いが叶い、佐賀を代表する Web マガジン「EDITORS SAGA」にて連載を持つことが決定しました。

春から新メンバーを迎え、より幅広くなったメモア編集部。
今後も、豊かに励んで参ります。

# Mémoire

佐賀大学芸術地域デザイン学部学生活動誌メモア vol.2

発行　メモア編集部

E-mail　memoire.saga@gmail.com

発行日　2022 年 6 月 21 日

後援　株式会社ハイブリッドファクトリー